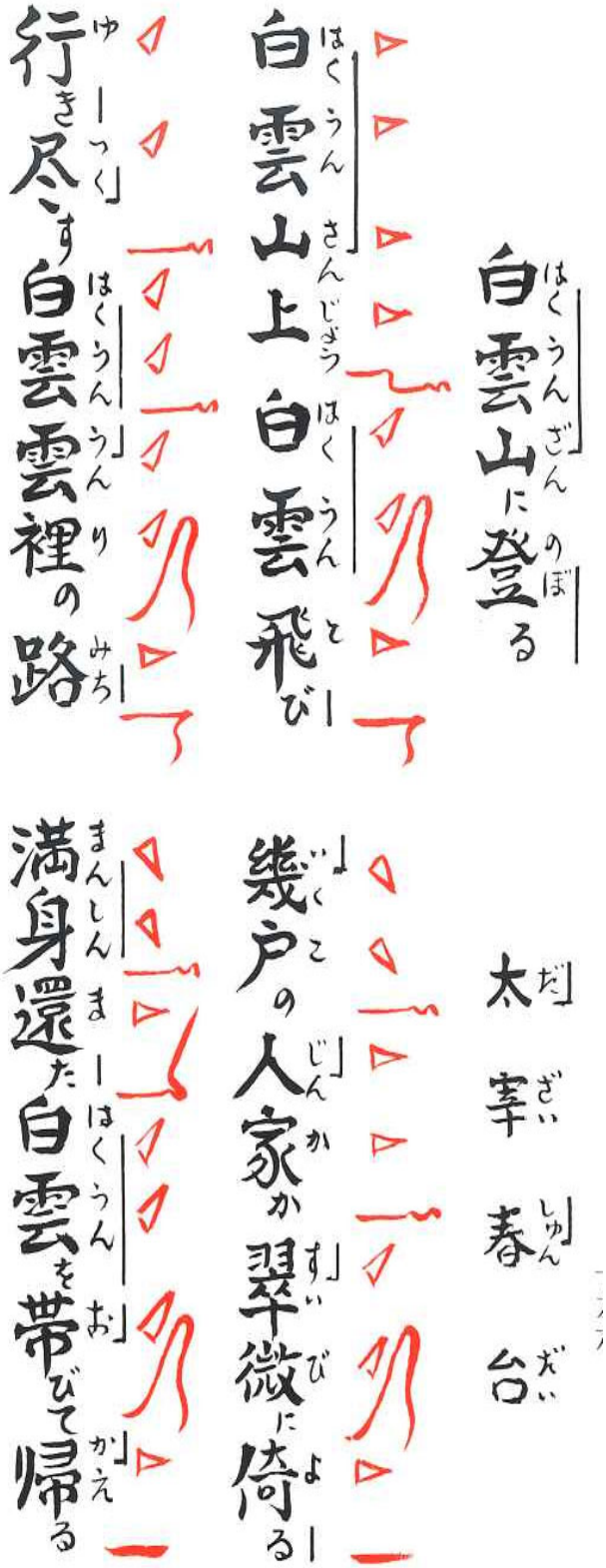

【作者】太宰春台（一六八〇～一七四七年）（延宝八年～延享四年）江戸時代中期の儒学者・経世家。「春台」は号で、名は純、字は徳夫、通称は弥右衛門。その秀才と剛気は、孔子の弟子子路になぞらえられた。

【語釈】＊白雲山… 妙義山東側の主峰。　＊白雲… 白い雲。俗世間を超越したことを暗示する語。　＊翠微…山の中腹、八合目あたりをいう。
＊倚る…寄る。　＊雲裡…雲の中。

【通釈】白雲山はさすがにその名の通り白雲が飛んでいる。幾軒かの人家がその中腹にあり、かすんで見える。白雲のもうもうとした中を行きつくしてまた、白雲におおわれた山道を全身白雲でしっとりとぬれて帰って来た。